はじめに

グローバル化、AI化、IoT化が急速に進み、産業構造、ビジネスの形態も激変を続けている現代において、今入学した学生が社会で活躍する際に本当に役立つ力を身に付けてもらえる教育を大学はどのように提供すれば良いのだろうか。既存の世界情勢、社会、経済、産業構造を前提とした知識は瞬時に陳腐化し、今ある職業の一部は学生が活躍する時期にはAIに代替されて消滅し、また想像すらできなかった職業が生まれているかもしれない。加えて特に日本においては平均寿命の継続的伸長と、社会保障制度の逼迫も相まって官民でここのところ急に「人生100年時代」がスローガンとして掲げられ始めている。教育も大学や大学院が最終では無くなり、生涯学習を続け、知識やスキルを更新し続けていかなければ瞬く間に社会的貢献の場を失いかねない。

本研究ではこの様な時代に対応するための英語を使った教育として、第一部ではCLIL（Content and Language Integrated Learning）の概念とその意義を考察し、第二部ではこのCLILの他EAP、EMIを基盤とした、神奈川大学経営学部の新カリキュラムである「国際ビジネスコミュニケーション（IBC）・プログラム」の設置の背景、教育目標と概要を論じる。